

第2章

調査結果の概要

令和2年度から令和7年度の6年間の「教科に関する調査」の結果から、県全体の「学力の伸び」の状況についての分析や、今後の対応策等について掲載しました。

また、参考資料として、児童生徒質問調査の質問項目、学習方略や非認知能力の質問項目について掲載しています。

1 「学力の伸び」の状況（令和2年度～令和7年度）

(1) 「学力のレベル」の経年変化（令和2年度から令和7年度の6年間）

- どの学年も過去の同学年と同等のレベルに達している。
- 多くの学年・教科で、学年が上がるごとに着実な「学力の伸び」が見られる。



※表の数値は、各学年の「学力のレベルの平均値」を表している。

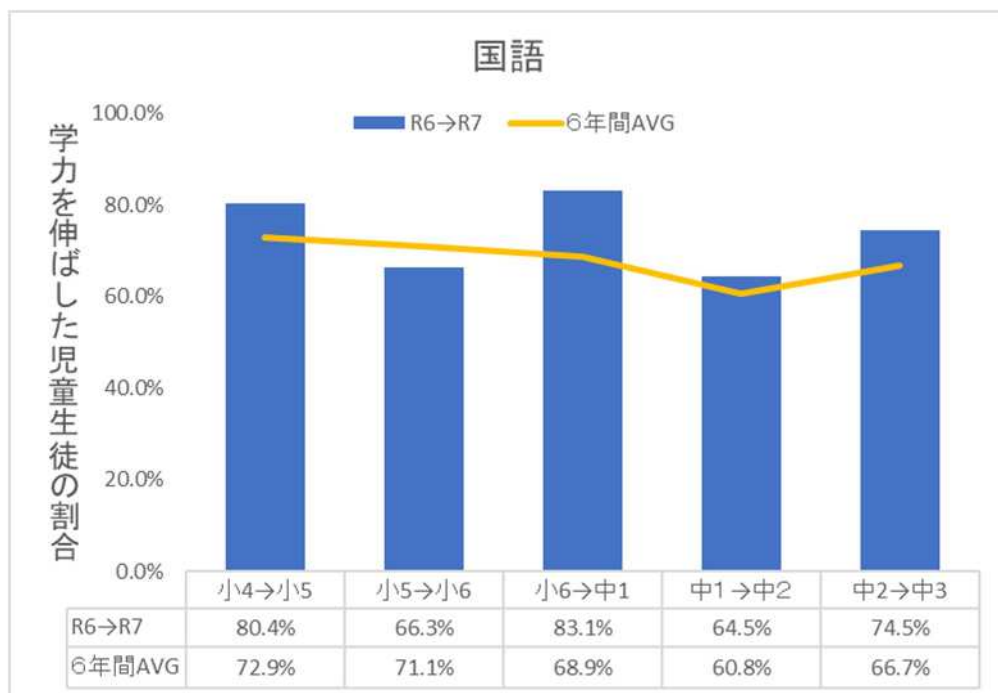
※各学年の学力のレベルは下記の範囲内【36段階（12レベル×3層）】で設定している。

小学校第4学年	小学校第5学年	小学校第6学年	中学校第1学年	中学校第2学年	中学校第3学年
1～21	4～24	7～27	10～30	13～33	16～36

(2) 学力が伸びた児童生徒の割合

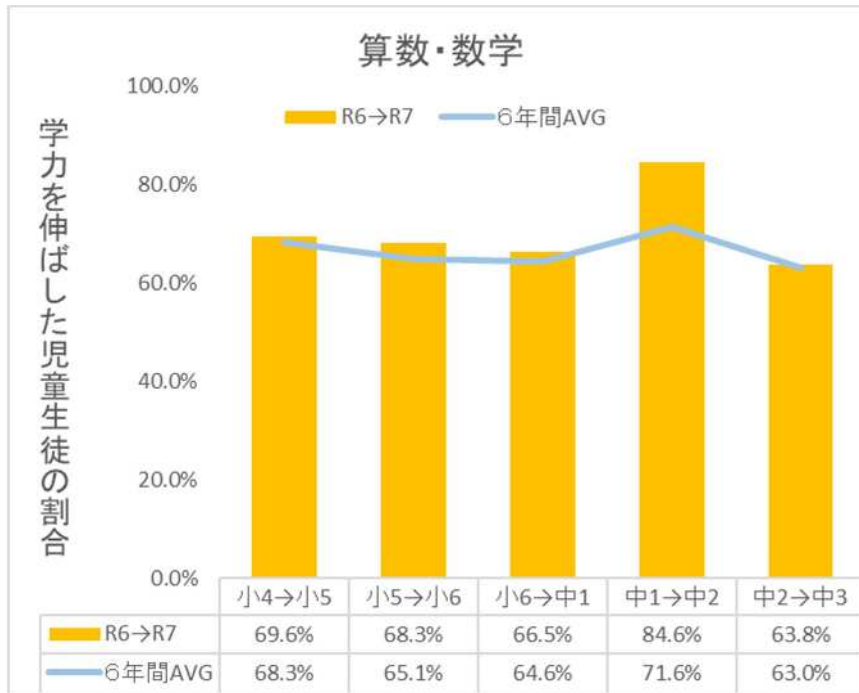
【国語】

- 令和6年度と比較すると、概ね6割5分から8割5分の児童生徒が学力を伸ばしている。
- 過去6年間の、前年度からの学力の伸びの平均値と比較すると、ほとんどの学年（小学校第6学年以外）で、学力を伸ばした児童生徒との割合が増加している。



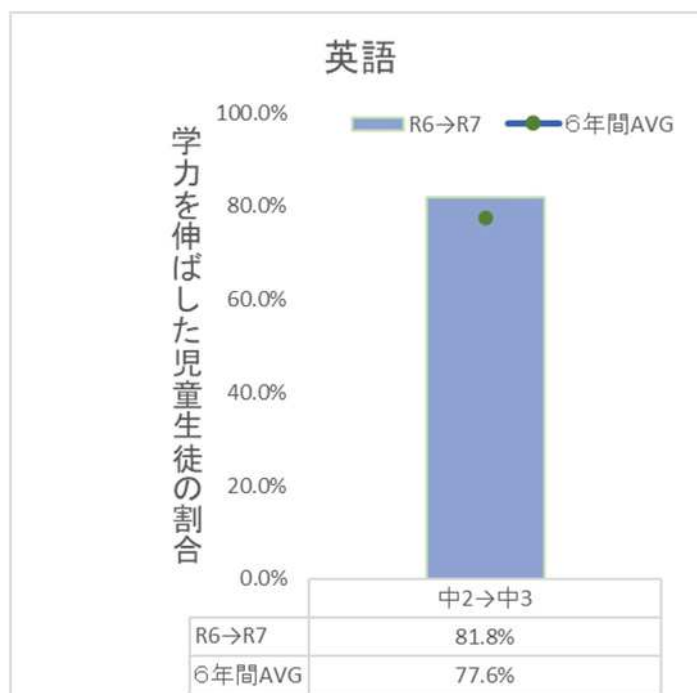
【数学】

- 令和6年度と比較すると、概ね6割5分から8割5分の児童生徒が学力を伸ばしている。
- 過去6年間の、前年度からの学力の伸びの平均値と比較すると、すべての学年で、学力を伸ばした児童生徒の割合が増加している。



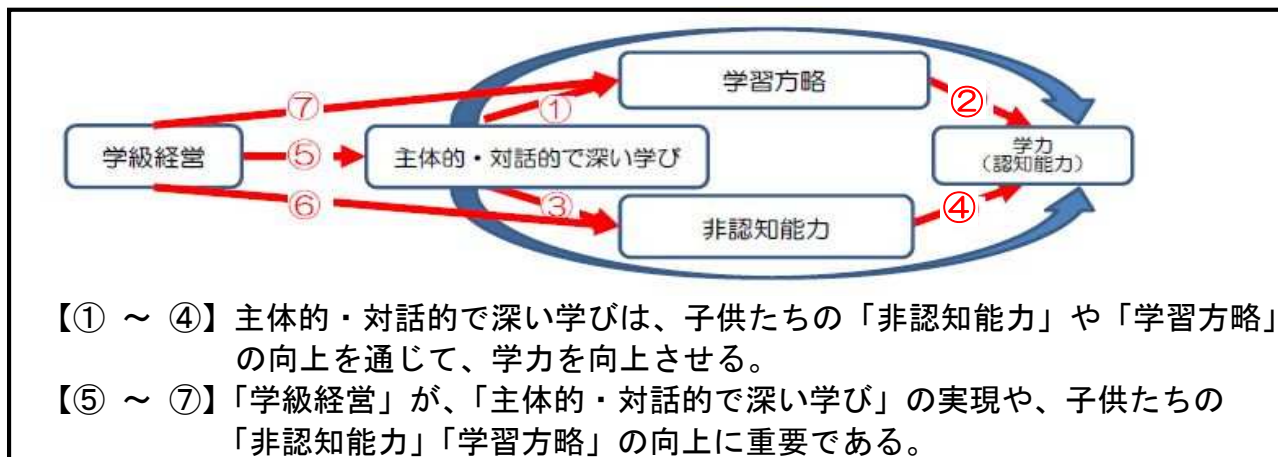
【英語】

- 令和6年度と比較すると、8割以上の生徒が学力を伸ばしている。
- 過去6年間の、前年度からの学力の伸びの平均値よりも、学力を伸ばした児童生徒の割合が増加している。



2 調査からみられた傾向

県学力・学習状況調査のこれまでの分析から、次の図のとおり「主体的・対話的で深い学び」の実施に加えて、「学級経営」が、子供の「非認知能力」「学習方略」を向上させ、子供の学力向上につながるということがわかっています。



令和7年の調査からは、主体的・対話的で深い学びに関する児童生徒質問調査の質問項目を分析した結果、次のことがわかりました。

(1) 授業の見通しと学びの自覚

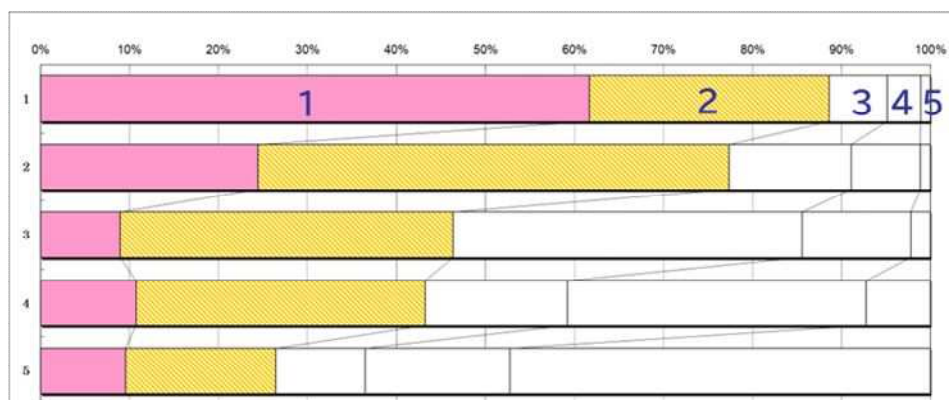
R7分析結果

- 授業のはじめに、「その授業でどんな学習をするか」(ねらい)をつかんだ児童生徒ほど、授業の終わりに学んだことを振り返り、「自分がわかったこと・わからなかったこと」を理解する傾向がある。

中3

「自分がわかったこと・わからなかったこと」の理解

授業の「ねらい」をつかんだ
 よくあった
 ↑
 なかった



1:よくあった 2:ときどきあった 3 どちらともいえない
 4:あまりなかった 5:ほとんどまたは全くなかった

※他の学年においても同様の傾向が見られました。

(2) 話し合いと考えの変容・深まり

- グループ等で話し合い課題解決した経験のある児童生徒ほど、話し合いの結果、「自分の考え方が変わったり、深まったりした」と回答した割合が高い傾向がある。

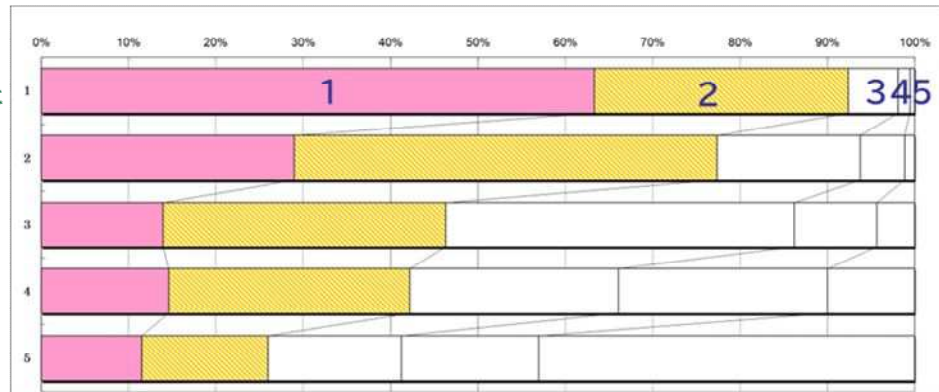
小4

「自分の考え方が変わったり、深まったりした」

グループ等で話し合い課題解決

よくあった

なかった



1:よくあった 2:ときどきあった 3 どちらともいえない
4:あまりなかった 5:ほとんどまたは全くなかった

※他の学年においても同様の傾向が見られました。

(3) CBT化による解答ログを用いた分析

令和6年度のCBT化全面実施により解答ログの取得ができるようになりました。解答ログ、非認知能力・学習方略及び正答率の関係について分析を行った結果、次のことがわかりました。

I **見直しを行う児童生徒は、正答率が高い。**



さらに児童生徒質問調査との関係について分析した結果



II ○作業方略の数値が高い児童生徒ほど、見直しを行っている。
○自己効力感の数値が高い児童生徒ほど、見直しを行っている。

【作業方略】

学習方略の一つ。ノートに書く、声を出すといった、作業を中心に学習を進める活動

【自己効力感】

非認知能力の一つ。自分はそれが実行できるという期待や自信

見直しを習慣化させるために、作業方略や自己効力感を高める取組が重要

(4)「授業の内容がわかる」と「自己効力感」

- 授業の内容がわかったと回答している児童生徒ほど、自己効力感が高い傾向がある。

【先生方へのメッセージ】

これまでの調査結果から、自己効力感が高い児童生徒ほど、学力が高いこと、学習方略や他の非認知能力を向上させることがわかっています。今回の調査結果から、授業の内容がわかるという経験そのものが、児童生徒の自己効力感を高めることにつながるが見えてきました。

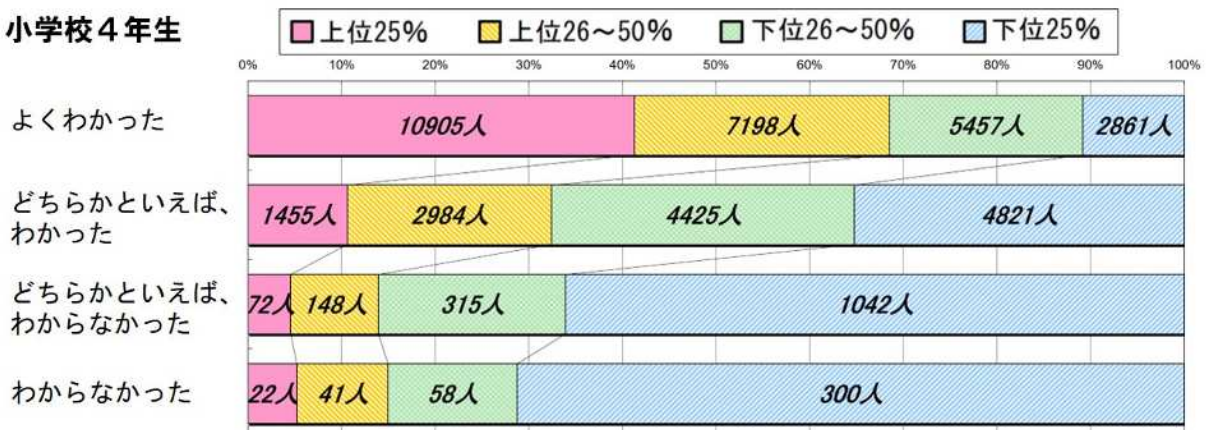
児童生徒一人一人が「わかった」「できた」と実感できる授業づくりを積み重ねていくことが大切です。

- 学習のねらいと見通しを共有し、児童生徒が主体的に学習に取り組めるようにしましょう。
- 児童生徒の理解の状況を丁寧に把握し、個別のつまずきに応じた支援を行いましょう。
- 児童生徒の実態に応じた無理のない課題設定や段階的な活動を通して、児童生徒が達成感や学びの手応えを積み重ねられるようにしましょう。

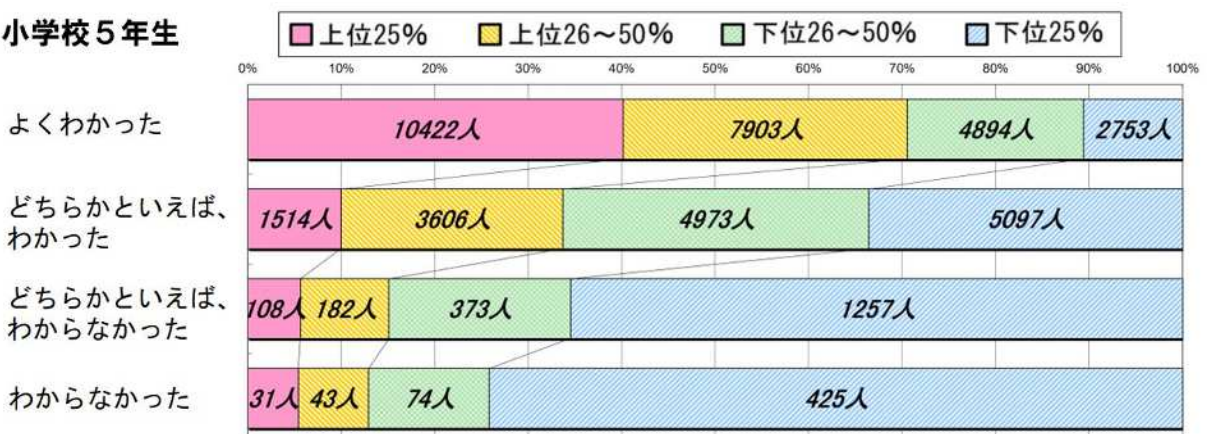
縦軸カテゴリ⇒ 授業の内容はわかりましたか

横軸カテゴリ⇒ 自己効力感の階層

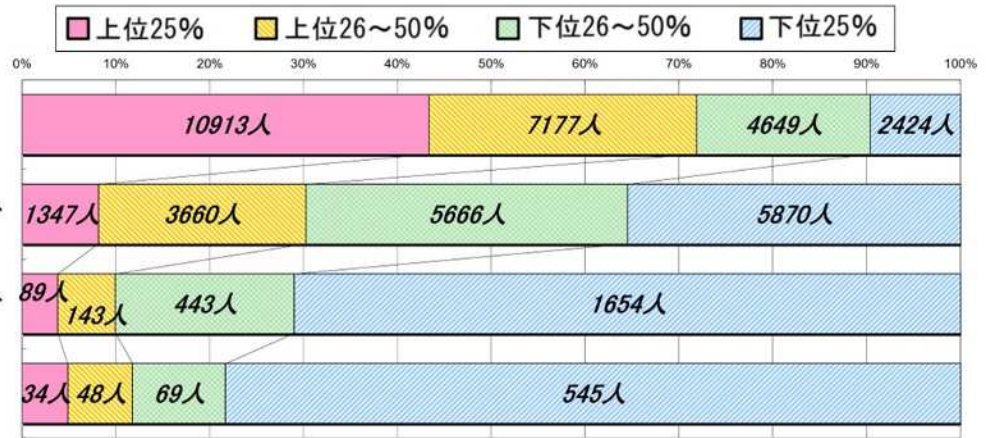
小学校4年生



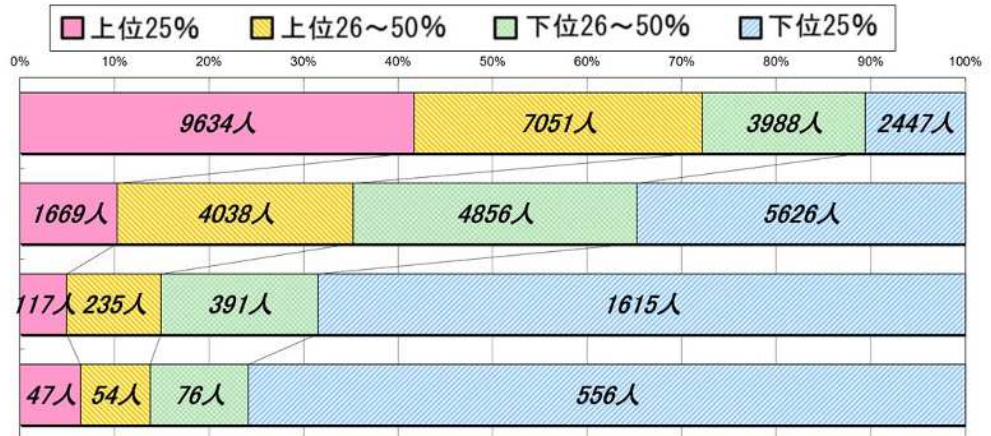
小学校5年生



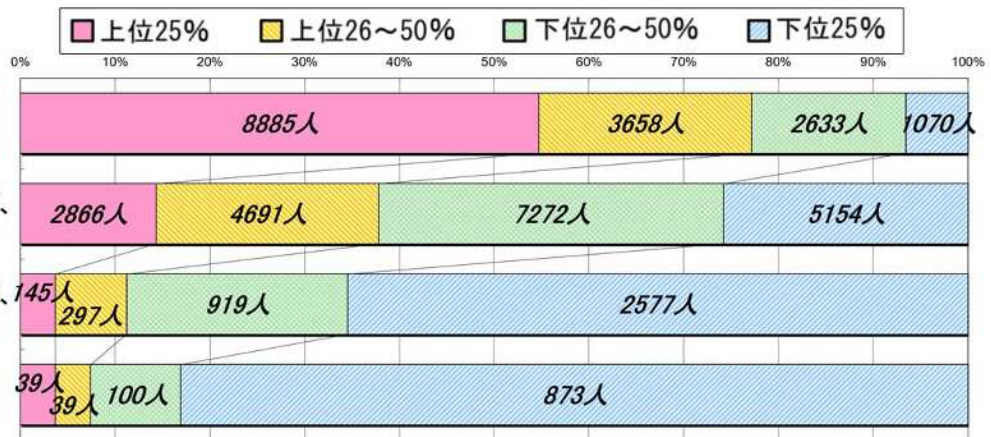
小学校6年生



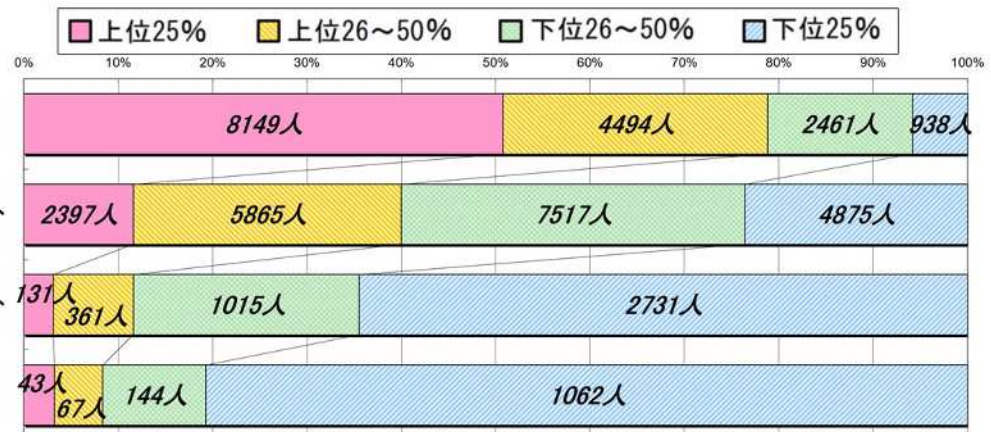
中学校1年生



中学校2年生



中学校3年生



(5) 「主体的・対話的で深い学び」と「学校生活へのやる気」

R 7分析結果

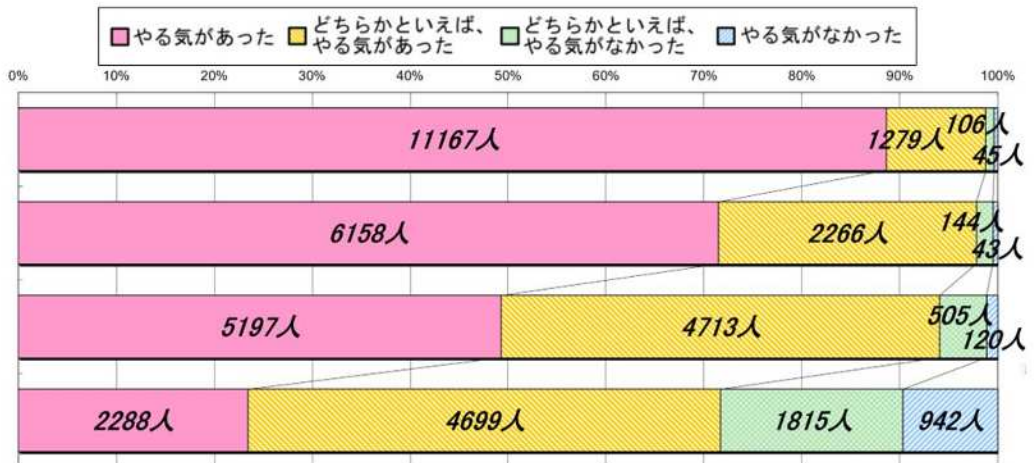
○ 主体的・対話的で深い学びを実現しているほど、児童生徒の学校生活に対するやる気がある傾向がある。

【先生方へのメッセージ】
 これまでの調査結果から、主体的・対話的で深い学びを実現しているほど、学力が高くなることがわかっています。今回の調査結果から、主体的・対話的で深い学びの実現が、児童生徒の学校生活に対するやる気につながるが見えてきました。
 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善は、学力の向上だけでなく、児童生徒の学校生活への意欲や前向きな気持ちを引き出す上でも重要です。
 ○ 興味や関心を引き出す問いや導入を工夫し、児童生徒の学びに向かう気持ちを高めていきましょう。
 ○ 対話を通して考えを広げたり深めたりできる場面を意図的に取り入れましょう。
 ○ 学んだ知識や考えを関連付けて整理したり、既習事項とつなげたりする活動を取り入れ、理解の深まりを促しましょう。

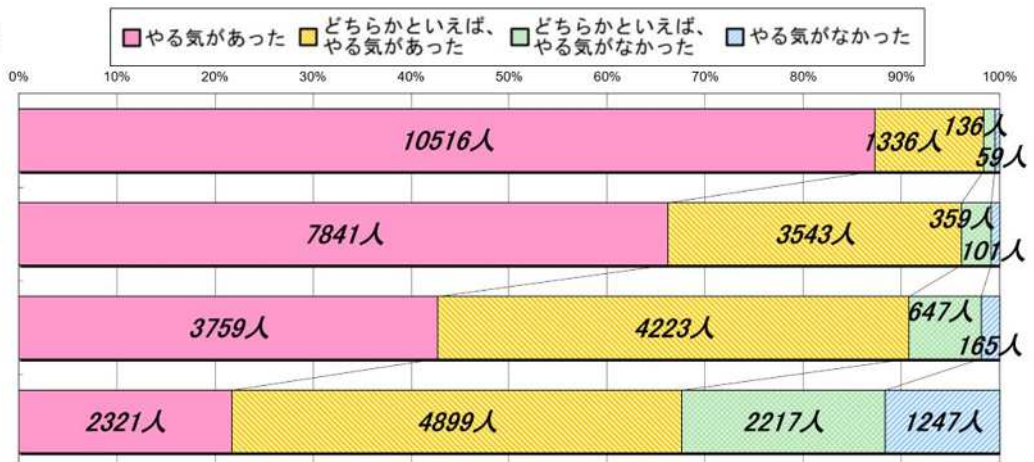
縦軸カテゴリ⇒ 主体的・対話的で深い学びの実施の階層

横軸カテゴリ⇒ 学校生活に対してやる気がありましたか

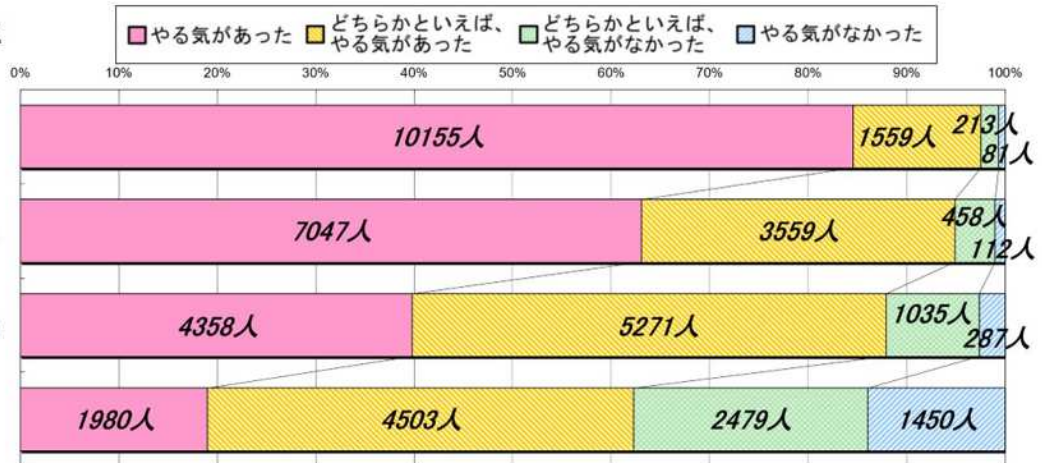
小学校4年生



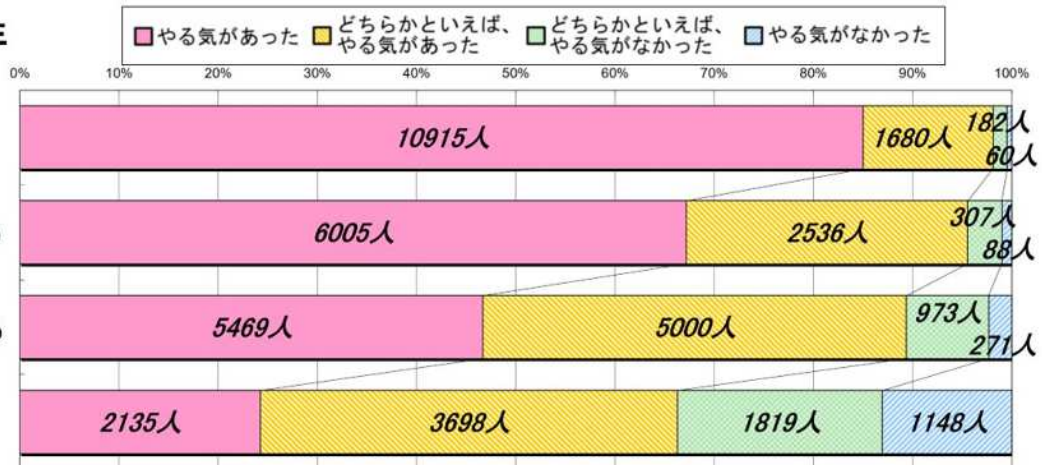
小学校5年生



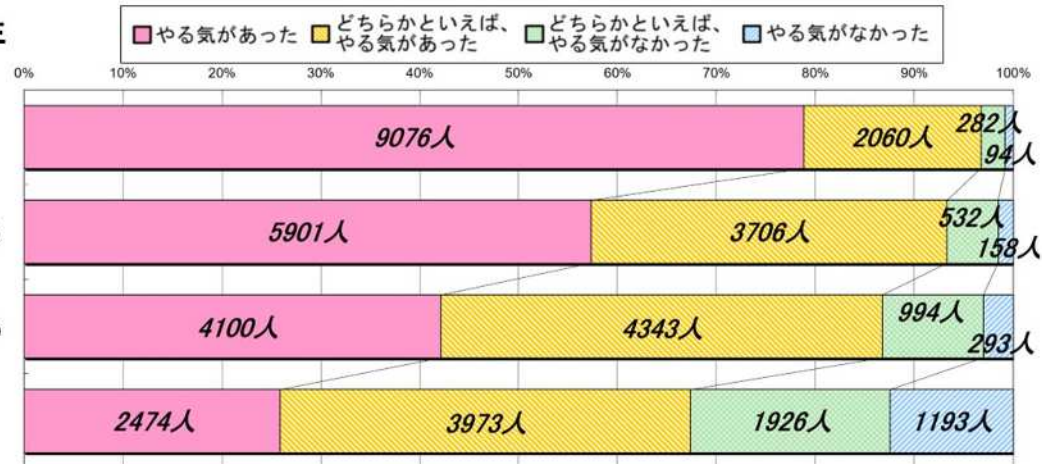
小学校6年生



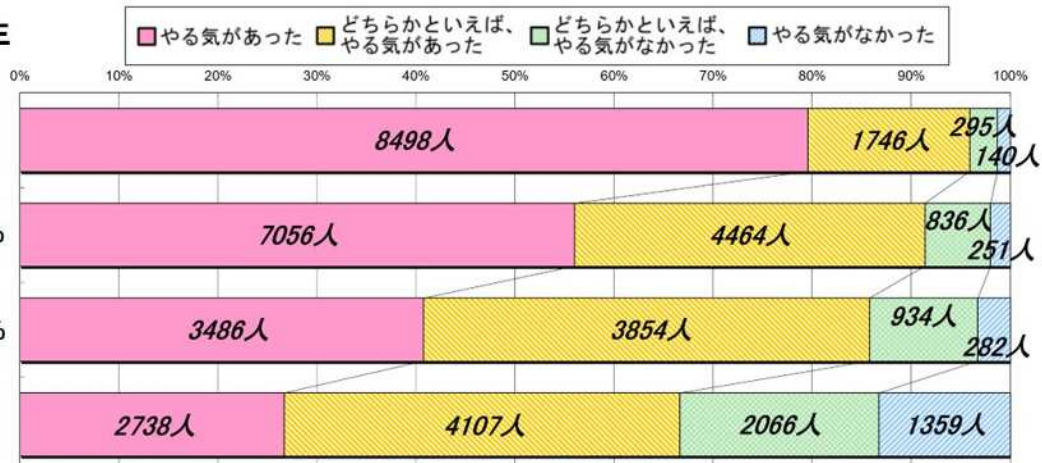
中学校1年生



中学校2年生



中学校3年生



【参考資料】学習方略や非認知能力の質問事項

項 目	説 明
学習方略	<p>子供が学習効果を高めるために意図的に行う活動（学習方法や態度）であり、次の①～⑤に分類される。</p> <p>① 柔軟的方略 … 自分の状況に合わせて学習方法を柔軟に変更していく活動 (例) 勉強の順番を変えたり、分からないところを重点的に学習したりする など</p> <p>② プランニング方略 … 計画的に学習に取り組む活動 (例) 勉強を始める前に計画を立てる など</p> <p>③ 作業方略 … ノートに書く、声に出すといった、「作業」を中心に学習を進める活動 (例) 大切なところを繰り返し書く など</p> <p>④ 認知的方略 … より自分の理解度を深めるような学習活動 (例) 勉強した内容を自分の言葉で理解する など</p> <p>⑤ 努力調整方略 … 「苦手」などの感情をコントロールして学習への意欲を高める活動 (例) 分からないところも諦めずに継続して学習する など</p>
【児童生徒質問の項目】	
柔軟的方略	勉強のやり方が、自分にあっているかどうかを考えながら勉強する 勉強でわからないところがあったら、勉強のやり方をいろいろ変えてみる 勉強しているときに、やった内容をおぼえているかどうかをたしかめる 勉強する前に、これから何を勉強しなければならないかについて考える
プランニング方略	勉強するときは、さいしょに計画をたててからはじめる 勉強をしているときに、やっていることが正しくできているかどうかをたしかめる 勉強するときは、自分できめた計画にそっておこなう 勉強しているとき、たまに止まって、一度やったところを見なおす
作業方略	勉強するときは、参考書や事典などがすぐ使えるように準備しておく 勉強する前に、勉強に必要な本などを用意してから勉強するようにしている 勉強していて大切だと思ったところは、言われなくてもノートにまとめる 勉強で大切なところは、くり返して書いたりしておぼえる
認知的方略	勉強するときは、内容を頭に思い浮かべながら考える 勉強をするときは、内容を自分の知っている言葉で理解するようにする 勉強していてわからないところがあったら、先生にきく 新しいことを勉強するとき、今までに勉強したことと関係があるかどうかを考えながら勉強する
努力調整方略	学校の勉強をしているとき、とてもめんどろでつまらないと思うことがよくあるので、やろうとしていたことを終える前にやめてしまう いまやっていることが気に入らなかったとしても、学校の勉強でよい成績をとるためにいっしょうけんめいがんばる 授業の内容がむずかしいときは、やらずにあきらめるか簡単なお題だけ勉強する 問題が退屈でつまらないときでも、それが終わるまでなんとかやりつけられるように努力する
出典：心理測定尺度集Ⅳ：子どもの発達を支える〈対人関係・適応〉(2007)、心理測定尺度集/堀洋道監修/サイエンス社	
項 目	説 明
非認知能力	<p>テストで計測される学力やIQなどとは違い、自分の感情をコントロールして行動する力があるなど性格的な特徴のようなものであり、本調査では次の5種類について質問を行っている。</p> <p>① 自己効力感 … 自分はそれが実行できるという期待や自信 (例) 難しい問題でも自分ならできると考えられる など</p>
【児童生徒質問の項目】 令和7年度の全学年に質問	
自己効力感	授業ではよい評価をもらえるだろうと信じている 教科書の中で一番難しい問題も理解できると思う 授業で教えてもらった基本的なことは理解できたと思う 先生が出した一番難しい問題も理解できると思う 学校の宿題や試験でよい成績をとることができると思う 学校でよい成績をとることができるだろうと思う 授業で教えてもらったことは使いこなせると思う 授業の難しさ、先生のこと、自分の実力のことなどを考えれば自分はこの授業でよくやっている方だと思う。
出典： P. Pintrich, et al.(1991) A Manual for the Use of the Motivated Strategies for Learning Questionnaire(MSLQ)	

<p>② 自制心 … 自分の意思で感情や欲望をコントロールすることができる力 (例) イライラしていても人に八つ当たりしない など</p> <p>【児童生徒質問の項目】 令和7年度の小学4年生、小学6年生に質問</p> <p>自制心</p>	<p>授業で必要なものを忘れた 他の子たちが話をしているときに、その子たちのじゃまをした 何か乱暴なことを言った 机・ロッカー・部屋が散らかっていたので、必要なもの見つけることができなかった 家や学校で頭に来て人や物にあたった 先生が、自分に対して言っていたことを思い出すことができなかった きちんと話を聞かないといけないときに、ぼんやりしていた イライラしてるときに、先生や家の人（兄弟姉妹を除きます）に口答えをした</p> <p>出典： Tsukayama, E., Duckworth, A. L., & Kim, B. (2013). Domain-specific impulsivity in school-age children. <i>Developmental Science</i>, 16, 879-893.</p>
<p>③ 勤勉性 … やるべきことをきちんとやることができる力 (例) 宿題が出されたらきちんと終わらせる など</p> <p>【児童生徒質問の項目】 令和7年度の中学3年生に質問</p> <p>勤勉性</p>	<p>うっかりまちがえたりミスしないように、やるべきことをやります ものごとは楽しみながらがんばってやります 自分がやるべきことにはきちんと関わります 授業中は自分がやっていることに集中します 宿題が終わったとき、ちゃんとできたかどうか何度も確認をします ルールや順番は守ります だれかと約束をしたら、それを守ります 自分の部屋や机の周りをはらかけています 何かを始めたら、絶対に終わらせなければいけません 学校で使うものはきちんと整理しておくほうです 宿題を終わらせてから、遊びます 気が散ってしまうことはあまりありません やらないといけないことはきちんとやります</p> <p>出典： Barbaranelli, C., Caprara, G. V., Rabasca, A., & Pastorelli, C. (2003). A questionnaire for measuring the Big Five in late childhood. <i>Personality and Individual Differences</i>, 34(4), 645-664.</p>
<p>④ やりぬく力 … 自分の目標に向かって粘り強く情熱をもって成し遂げられる力 (例) 失敗を乗り越えられる など</p> <p>【児童生徒質問の項目】 令和7年度の中学1年生に質問</p> <p>やりぬく力</p>	<p>大きな課題をやり遂げるために、しっばいをのりこえてきました 新しい考えや計画を思いつくと、前のことから気がそれてしまうことがあります きょう味をもっていることやかん心のあることは、毎年かわります しっばいしても、やる気がなくなってしまうことはありません 少しの間、ある考えや計画のことで頭がいっぱいになっても、しばらくするとあきてしまいます 何事にもよくがんばるほうです いったん目ひょうを決めてから、その後べつ目ひょうにかえることがよくあります 終わるまでに何か月もかかるようなことに集中し続けることができせん 始めたことは何でもさいごまで終わらせます 何年もかかるような目ひょうをやりとげてきました 数か月ごとに、新しいことにきょう味を持ちます まじめにコツコツとやるタイプです</p> <p>出典： Duckworth, A. L., Peterson, C., Matthews, M. D., & Kelly, D. R. (2007). Grit: Perseverance and passion for long-term goals. <i>Journal of Personality and Social Psychology</i>, 92(6), 1087-1101.</p>
<p>⑤ 向社会性 … 外的な報酬を期待することなしに、他人や他の人々の集団を助けようとしたり、人々のためになることをしようとしたりする力 (例) 相手の気持ちを考える、親切にする など</p> <p>【児童生徒質問の項目】 令和7年度の小学5年生、中学2年生に質問</p> <p>向社会性</p>	<p>私は、誰に対しても親切にしようとしている 私は、その人の気持ちをよく考える 私は、他の子たちと本や遊び道具などを共有する 私は、誰かが心を痛めていたり、落ち込んでいたり、嫌な思いをしているときなど、進んで助ける 私は、年下の子供たちに対して、優しくしている 私は、自分から進んで親・先生・友達のお手伝いをする</p> <p>出典： Goodman R (1997) The Strengths and Difficulties Questionnaire: A Research Note. <i>Journal of Child Psychology and Psychiatry</i>, 38, 581-586. Goodman R, Meltzer H, Bailey V (1998) The Strengths and Difficulties Questionnaire: A pilot study on the validity of the self-report version. <i>European Child and Adolescent Psychiatry</i>, 7, 125-130.</p>